

科目名	危機管理論特殊研究	担当者	カワナカ ケイイチ 川中 敬一	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	--------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、自らの関心事象の歴史的淵源及び経緯を知ることにより、当該事象の推移の方向性を測る尺度を修得することを目的とする。</p> <p>① 世界諸国の歴史や政治、経済、文化、価値観、信条等の現状及び相互関係を総合的に理解し、国際社会が直面している問題の解決策を提案することができる。</p> <p>② 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的情報に基づく論理的・批判的な考察を通じ、課題に対し具体的かつ論理整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。</p> <p>③ 学修状況の自己分析に基づく評価を、今後の学習に活かすことができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>意志決定者が、適切な情勢判断を実施するために、関心事象の歴史的分析方法を理解し、当該事象の推移の方向性を測る尺度を構築する能力を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>① 学修者が、米国及び中国の政治・経済・文化の統合的理念を説明することができる。(知識)</p> <p>② 上記統合的理念達成過程における軍事の定位・機能を関連づけられる。(知識)</p> <p>③ ①及び②により得た尺度に基づく現実の事象の意義を評価できる。(技能)</p> <p>④ ①～③により修得した尺度を常時点検し、精度向上に努めることができる。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>① 指定図書及び参考図書の読書と課題答申草案を作成する。</p> <p>② manaba folio のコレクション利用によるインタラクティブな個別指導を受ける。</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>① レポート作成を通じた米中両国の統合的理念の整理及び現象評価尺度の構築。 基本教材及び参考資料読書：15 時間 (レポート 1 編当たり) 自己の評価尺度構築：15 時間 (レポート 1 編当たり)</p> <p>② 自己が構築した尺度の適用による付与された現象の意義を評価。 付与現象の意義評価：10 時間 (レポート 1 編当たり)</p> <p>③ 個別指導を通じた自己構築尺度の精度向上努力。 尺度再構築・精度向上：5 時間 (レポート 1 編当たり)</p> <p>④ 上記合計で 1 レポート当たり 45 時間を要す。</p>		
スケジュール	前期	<p>初稿提出期限：7 月 30 日 21:00</p> <p>最終提出期限：最終稿の提出期限は学事歴に従う。</p>	
	後期	<p>初稿提出期限：11 月 25 日 21:00</p> <p>最終提出期限：最終稿の提出期限は学事歴に従う。</p>	
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	<p>① SOB①及び②を精度に関わらず明確に構築できているか。</p> <p>② 結論と結論導出過程が明確に接続しているか。</p> <p>③ 引用・参照を適切かつ正確に記述したか。</p>
	観察記録	20%	<p>① 不明点を早期かつ率直に質問したか。</p> <p>② 指導に対する真摯な受容と積極的な再検討をしたか。</p> <p>③ 指定図書及び参考図書以外の資料も自発的に駆使したか。</p>
履修者への要望	<p>① 国際政治関連を学ぶ学生は無論、経営・経済を学ぶ学生の履修を歓迎します。経営・経済と国際的枠組みとは無縁ではないことを知っていただきたいと思います。</p> <p>② 基本教材と参考図書のみでは、課題に答申しきれないかもしれません。その際は、担当教員に必要な資料を問い合わせることを推奨します。</p> <p>③ 「講義概要」では記述しきれない細部については、履修後直ちに各学生に伝達します。</p> <p>④ レポートは、読書と並行しながら作成することを推奨します。疑問が湧いたり、行き詰まった都度、担当教員を存分に利用してください。</p> <p>⑤ 履修登録と同時に、担当教員に履修した旨を連絡してください。 kawanaka.keiichi@nihon-u.ac.jp</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 麻田貞雄 教材名： 『マハン海上権力論集』（講談社、2010年）ISBN:978-4-06-292027/920円
	① 米国の海外進出の理論的基板であり、後年における日本やアジア地域との確執の萌芽を生み出したマハンによる海洋戦略思想と米国の発展方向を包括的に理解する上での必読書です。 ② 米国建国以来の海外利権と、アジア（特に日本・中国）観を理解する上での必読書です。
参考図書	① 渡辺惣樹『日本開国』（草思社、2016年）/978-4-7942-2204-6/880円 ② 松岡完等『冷戦史』（同文館出版社、2003年）/978-4-4495-46331-1/3,190円 ③ 未里周平『セオドア・ルーズベルトの生涯と日本』（丸善プラネット、2013年）/978-8-4863-45173-5/1,600円 ④ アーネスト・メイ『歴史の教訓』（岩波書店、2004年）/978-4-0060-0120-9/1,430円 ⑤ 渡辺惣樹『アメリカの対日政策を読み解く』（草思社、2016年）/978-4-7942-2193-3/1,980円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 ① 米国の建国理念が、国家建設過程において、いかなる変容と遂げたか。 ② マニフェスト・デスティニーという概念が、米国対外市場の各現象にどのように作用したのか。 ③ ①と②の延長で、米国の不変的な対中国・日本観は、どのようなものか。 ④ ①～③で得られる米国の不変構造の今日的意義は、どのようなものか。
レポート課題 1	「米国の対中姿勢における変動の原因を米国の伝統的アジア観を基軸にして考察せよ」 (4,000～5,000字) 留意点：アジアにおける米国の究極的利益は何かを中心に考察してください。
レポート課題 2	「第2次世界大戦で日米が衝突した遠因を米国の歴史的アジア観を基軸にして考察せよ」 (4,000～5,000字) 留意点：中国をめぐる日米の利権争奪という側面から考察してください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 岡本隆司 教材名： 『中国の論理』（中央公論新社、2016年）/978-4-12-102392-6/902円
	欧米世界とは異なる価値観・秩序観に立脚した悠長の歴史を歩んできた“中華”世界特有の中国と台湾という隣国の不変部分と可変部分とを理解する上で極めて有用な良書である。特に、中華世界の指導者たちの理念と思考方式を理解する上での必読書である。
参考図書	① 岡本隆司『歴史で読む中国の不可解』（日本経済新聞出版社、2018年）/978-4-5322-6378-4/935円 ② 丸川哲史『魯迅と毛沢東』（以文社、2010年）/978-4-7531-0278-5/2,800円 ③ 海洋政策研究財団『中国の海洋進出』（成山堂書店、2013年）/977-8-4425-53151-6/2,400円 ※ 中古のみ入手可能。第4章「海洋をめぐる中国の戦略的構造」：担当教員執筆 ④ 田越英『図解 現代中国の軌跡 中国国防』（科学出版社東京、2018年）/978-4-907051-42-6/4,180円 ⑤ 楊鳳春『図解 現代中国の軌跡 中国政治』（科学出版社東京、2018年）/978-4-907051-43-3/4,180円 ⑥ 小野寺史郎『中国ナショナリズム』（中央公論新社、2017年）/978-4-1210-2437-4/946円 ⑦ 北村稔『現代中国を形成した二大政党』（ウェッジ、2011年）/978-4-8631-0088-6/1,760円
履修上のポイント	課題答申に関する基本教材及び参考図書を読むに当たり、以下の点に留意してください。 ① 近代中国の各政権の理念における連続性と不連続性は何か。 ② 中華世界の指導者の不変的な国内統治観と対外姿勢とは、それぞれどのようなものか。 ③ ①と②の延長にある近代中国革命の本質と、それが現在の国内外政治へ及ぼしている影響。 ④ ①～③で得られる中華世界を基軸とした国際社会構造における日本の定位を考察する。
レポート課題 1	「領土問題に関わる中国共産党と中国国民党の主張における相違点と共通点の淵源を考察せよ」 (3,000～5,000字) 留意点：近代史における“天下”概念と台湾問題に留意して考察してください。
レポート課題 2	「日中海洋紛争における日本、中国及び米国にとっての意義を考察せよ」(3,000～5,000字) 留意点：領土問題において中国が妥協可能とみなすか否かを基軸に考察してください。

基本教材 1

第 1 回	課題の意図を熟考する。教材の「解説」に基づく学修①（マハン海権思想の背景・全体像）を実施する。
第 2 回	教材の「海上権力の歴史に及ぼした影響」に基づく学修②（シーパワーの要旨）を実施する。
第 3 回	教材の「海上権力の歴史に及ぼした影響」に基づく学修③（シーパワーの要旨）を実施する
第 4 回	教材の「合衆国海外に目を転ず」に基づく学修④（19 世紀末の米国の情勢）を実施する
第 5 回	教材の「合衆国海外に目を転ず」に基づく学修⑤（19 世紀末の米国の情勢）を実施する。
第 6 回	教材の「ハワイとわが海上権力の将来」に基づく学修⑥（米国の海外侵略の原型）を実施する。
第 7 回	教材の「20 世紀への展望」に基づく学修⑦（米国の選民思想）を実施する。
第 8 回	教材の「海戦軍事充実論」に基づく学修⑧（米国政治における海軍の地位）を実施する。
第 9 回	教材の「アジアの問題」に基づく学修⑨（米国の対アジア観）を実施する。
第 10 回	教材の「アジア情況の国際政治に及ぼす影響」⑩（マハンの日本・中国観）を実施する。
第 11 回	レポート課題 1 及び 2 の考察結果を初稿として提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に関する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考し、最終稿を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 に関する教員からの指導を受け、それに基づき初稿の内容を再考し、最終稿を作成する。
第 14 回	レポート課題 1 及び 2 の再考結果と各課題の意図との整合性を確認する。
第 15 回	レポート課題 1 及び 2 の最終稿を提出する。

基本教材 2

第 1 回	課題の意図を熟考する。教材の「Ⅰ 史学」に基づく学修①(中国における儒教の影響)を実施する。
第 2 回	教材の「Ⅰ 史学」に基づく学修②(中国人の歴史観)を実施する。
第 3 回	教材の「Ⅱ 社会と政治」に基づく学修③(中華の伝統的エリート)を実施する。
第 4 回	教材の「Ⅲ 世界観と世界秩序」に基づく学修④(天下の意味)を実施する。
第 5 回	教材の「Ⅲ 世界観と世界秩序」に基づく学修⑤(天下の意味)を実施する。
第 6 回	教材の「Ⅳ 近代の到来」に基づく学修⑥(西洋の衝撃の定位)を実施する。
第 7 回	教材の「Ⅳ 近代の到来」に基づく学修⑦(変革の胎動と梁啓超)を実施する。
第 8 回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑧(あとをつぐもの)を実施する。
第 9 回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑨(毛沢東)を実施する。
第 10 回	教材の「Ⅴ 革命の世紀」に基づく学修⑩(改革開放の歴史的 position)を実施する。
第 11 回	教材を基軸としたレポート課題 1 作成のための構想を策定する。
第 12 回	教材を基軸としたレポート課題 2 作成のための構想を策定する。
第 13 回	レポート課題 1 及び 2 の初稿を提出する。
第 14 回	提出した初稿に対する教員からの指導の意図を理解し、それを勘案した最終稿を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 及び 2 の最終稿を提出する。